

大測の 大測小僧

大測の丸火自然公園の東端に小さなほこらがひっそりと建っています。ここには、大測小僧という子供をまつてあります。今回は、この大測小僧のお話を紹介します。

手に負えない悪童

ずっと昔のこと、大測新田に大測小僧と呼ばれる手に負えない悪い子供がいました。

大測小僧は、両親と死に別れ、おばあさんに育てられました。ただでさえ寂しい上に、近所の子供は「親なし子」だといって遊んでくれません。ですから、だんだん心がすさみ畑を荒らしたり、人をだましたりするように



昭和六十一年六月五日号

なりました。そして、人に嫌われれば嫌われるほど、子供とは思えぬ悪さをしました。

小僧のたたり

困った村人は、おばあさんに注意をするよう言いましたが、おばあさんは、少しも相手にしません。

村人の中には、小僧を殺してしまえという者が出てきました。名主は反対しましたが、村の中が殺気立ち、殺すことに決まりました。おばあさんは、小僧に「粟の粒ほどたたつてやれ」と言いました。

翌朝、小僧は村人に殺されてしまいました。それから、小僧を殴った人が次々と急に死に、村には原因不明の病気がはやりました。

だれいふことなく「これは小僧のたたりだ」

と言うようになりました。村人は、「悪いことをした」と悔やみ、子供の霊を神としてまつりました。すると、村人の病気は、たちまち治りました。

小学生が時々お参り

佐野うめさん（大淵三丁目）

大淵三丁目の佐野うめさんは、「大淵小僧の話は子供のころから自然と聞いています。地の神様としてまつられ、地元の小学生などが時々お参りしているよ。」と語ってくれました。



大淵小僧のほくら